

しょうがい りゆう さべつ かいしょう かん ながさきししょくいんたいおうようりょうだい じょう きてい
障害を理由とする差別の解消に関する長崎市職員対応要領第5条に規定する
りゆういじこう
留意事項

へいせい ねん がつ にちけつてい
(平成29年4月5日決定)

しょうがい りゆう さべつ かいしょう かん ながさきししょくいんたいおうようりょう い か たいおうようりょう
障害を理由とする差別の解消に関する長崎市職員対応要領（以下「対応要領」とい
う。）第5条に基づき、不当な差別的取扱いの禁止及び合理的配慮の提供に関し、職員
がその職務を執行するにあたって留意すべき事項を次のとおり定める。

ふとう さべつてきとりあつかい きんし たいおうようりょうだい じょうかんけい
1 不当な差別的取扱いの禁止（対応要領第3条関係）について

ふとう さべつてきとりあつかい きほんてき かんが かつ
(1) 「不当な差別的取扱い」の基本的な考え方

ひと ちが こせい のうりよく
人は、それぞれ違った個性や能力をもちっています。

くべつ こせい のうりよく とくしよく みと たいとう かんけい もと
「区別」とは、それぞれの個性や能力を特色として認めたいうえで、対等な関係の下で、
ちが あらわ さべつ こせい のうりよく ゆうれつ じょうげかんけい
その違いを表すものですが、「差別」とは、それぞれの個性や能力に、優劣や上下関係
つ じゆう けんり むし しんがい ふりえき あつか
を付けたうえで、その自由や権利を無視し、侵害するなどの不利益な扱いをすることを
いいます。

しょうがい りゆう さべつ かいしょう かん ほうりつ へいせい ねんほうりつだい ごう い か ほう
障害を理由とする差別の解消に関する法律（平成25年法律第65号。以下「法」とい
う。）は、障害者に対して、正当な理由なく、障害を理由として、次のような行為に
しょうがいしゃ けんりりえき しんがい きんし
より障害者の権利利益を侵害することを禁止しています。

- こうきょうしせつ りようおよ かくしゅ きかい ていきょう きよひ
① 公共施設の利用及び各種サービスや機会の提供を拒否すること。
- ていきょう あ ぼしよ じかんたい せいげん
② 提供に当たって場所・時間帯などを制限すること。
- しょうがいしゃ もの たい ふ じょうけん つ
③ 障害者でない者に対しては付さない条件を付けること。

ただし、しょうがいしゃ じじつじょう びょうどう そくしん また たつせい ひつよう とくべつ そち
ただし、障害者の事実上の平等を促進し、又は達成するために必要な特別の措置は、
ふとう さべつてきとりあつかい
不当な差別的取扱いではありません。したがって、次のような行為は、不当な差別的
とりあつかい あ
取扱いには当たりません。

- しょうがいしゃ しょうがいしゃ もの くら ゆうぐう とりあつかい せつきよくてきかいげん そち
① 障害者を障害者でない者と比べて優遇する取扱い（いわゆる積極的改善措置）
おこな
を行うこと。
- ごうりてきはいりよ ていきょう しょうがいしゃ もの こと とりあつかい おこな
② 合理的配慮の提供による障害者でない者との異なる取扱いを行うこと。
- ごうりてきはいりよ ていきょうなど ひつよう はんい はいりよ しょうがいしゃ しょうがい
③ 合理的配慮の提供等に必要範囲で、プライバシーに配慮しつつ障害者に障害
じょうきょうなど かにん
の状況等を確認すること。

せいとう りゆう はんだん してん
(2) 正当な理由の判断の視点

せいとう りゆう そうとう しょうがいしゃ たい しょうがい りゆう こうきょうしせつ りよう
正当な理由に相当するのは、障害者に対して、障害を理由として、公共施設の利用
およ かくしゅ きかい ていきょう きよひ とりあつかい きやつかんてき み せいとう もくてき
及び各種サービスや機会の提供を拒否するなどの取扱いが客観的に見て正当な目的
もと おこな おこな もくてき て え ばあい
の下に行われたものであり、その目的に照らしてやむを得ないといえる場合です。

きやつかんてき み たいおう もの はんだん しゅかんせい ゆだ だいさんしゃ
「客観的に見て」とは、対応した者の判断（主観性）に委ねられるのではなく、第三者
かみ え なつとく え はんだん きやつかんせい そな
から見てもやむを得ないと納得を得られるような判断（客観性）を備えたものでなけれ
ばならないということです。

したがって、^{せいとう りゆう そうとう いな}正当な理由に相当するか否かについては、^{こべつ じあん つぎ}個別の事案ごとに、次のよう
^{かんてん かんが}な観点に鑑み、^{ぐたいてきばめん じょうきょう おう}具体的な場面や状況に応じて^{そうごうてき きやつかんてき はんたん}総合的・客観的に判断することが必要と
 なりますが、^{たん じ こ きけん おそ}単に事故や危険の恐れがあるなどの^{ちゆうしやうてき りゆう}抽象的な理由ではなく、^{ぐたいてき ばめん}具体的な場面
 や^{じょうきょう おう めいかく りゆう もと}状況に応じた明確な理由が求められます。

そのうえで、^{せいとう りゆう はんたん ばあい}正当な理由があると判断した場合には、^{しょうがいしゃ りゆう せつめい りかい}障害者にその理由を説明し、理解
 を得るよう^{え つと もと}努めることが求められます。

- ① ^{しょうがいしゃ だいさんしゃ けんりりえき れい あんぜん かくほ ざいさん ほぜん そんがいはっせい ぼうしなど}障害者や第三者の権利利益（例：安全の確保、財産の保全、損害発生防止等）
- ② ^{ほんし じむ じぎょう もくてき ないよう きのう いじなど}本市の事務・事業の目的・内容・機能の維持等

(3) ^{ふとう さべつてきとりあつか はんたん してん ぐたいれい}不当な差別的取扱いの判断の視点と具体例

^{ふとう さべつてきとりあつか}不当な差別的取扱いについては、^{はんたん ひつよう}個別の事案ごとに判断する必要があり、^{か き きさい}下記に記載
 された^{ぐたいれい}具体例であっても、^{さべつ あ}差別に当たるかどうかは、^{そうごうてき きやつかんてき み せいとう りゆう}総合的・客観的に見て正当な理由
 が存在する場合は、^{そんざい ばあい ふとう さべつてきとりあつか あ}不当な差別的取扱いに当たらないこともあります。なお、これらは
 あくまでも^{れいじ きさい}例示であり、記載されている^{ぐたいれい かぎ}具体例だけに限られるものではないことに留意
 する必要があります。

■ ^{ふとう さべつてきとりあつか ぐたいれい}不当な差別的取扱いの具体例

^{ぐたいれい} 具体例
① ^{しょうがいしゃほんにん むし かいじょしゃ しえんしゃ つ そ しゃ はな} 障害者本人を無視して、 ^{かいじょしゃ しえんしゃ つ そ しゃ はな} 介助者・支援者や付き添い者のみに話しかける。
② ^{しょうがい りゆう せいやくしょ どういしよなど ていしゆつ もと たしや こと} 障害があることを理由に、 ^{ていしゆつ もと} 誓約書・同意書等の提出を求めるなど、 ^{たしや こと} 他者と異なる ^{てつづ か} 手続きを課す。
③ ^{しんたいしょうがいしゃほじょけん もうどうけん ちやうどうけん かいじょけん たいどう りゆう にゆうしつ にゆうじやう} 身体障害者補助犬（ ^{かいじょけん} 盲導犬、 ^{ちやうどうけん} 聴導犬、 ^{かいじょけん} 介助犬） ^{たいどう りゆう にゆうしつ にゆうじやう} ※の ^{きよひ} 帯同を理由に入室・入場を ^{きよひ} 拒否する。
④ ^{ちやうかく しょうがい かた まどぐち ひつだん もと さい きよひ} 聴覚に障害がある方が ^{さい きよひ} 窓口での筆談を求めた際に拒否する。
⑤ ^{じむ じぎょう すいこうじやう とく ひつよう} 事務・事業の ^{さい つか そ しゃ どうこう もと じやうけん つ とく ししやう} 遂行上、特に必要ではないにもかかわらず、 ^{しょうがい りゆう らいちやう} 障害を理由に、来庁の ^{さい つか そ しゃ どうこう こぼ} 際に付き添い者の同行を求めるなどの ^{さい つか そ しゃ どうこう こぼ} 条件を付けたり、特に支障がないにもかかわらず、 ^{さい つか そ しゃ どうこう こぼ} 付き添い者の同行を拒んだりする。

※^{しんたいしょうがいしゃほじょけん め みみ てあし しょうがい ひと せいかつ もうどうけん}身体障害者補助犬：目や耳や手足に障害のある人の生活をサポートする、^{ちやうどうけん かいじょけん}盲導犬、^{しんたいしょうがいしゃほじょけんほう もと にんてい いぬ とくべつ}聴導犬、^{かいじょけん}介助犬のことです。^{しんたいしょうがいしゃほじょけんほう もと にんてい いぬ とくべつ}身体障害者補助犬法に基づき認定された犬で、特別な
^{くんれん う ほじょけん どうはん しんたいしょうがいしゃほじょけんほう ひと た}訓練を受けています。^{くんれん う ほじょけん どうはん しんたいしょうがいしゃほじょけんほう ひと た}補助犬の同伴については、「^{くんれん う ほじょけん どうはん しんたいしょうがいしゃほじょけんほう ひと た}身体障害者補助犬法」で、人が立
^{い さまざま ぼしやう い ぎむ}ち入ることのできる様々な場所で受け入れるよう義務づけられています。

- ① ^{もうどうけん しかくしょうがいしゃ まちなか あんぜん ある}盲導犬：視覚障害者が街中を安全に歩けるようにサポートします。
- ② ^{ちやうどうけん ちやうかくしょうがいしゃ いろいろ どうさ つか おと し}聴導犬：聴覚障害者にタッチをするなど色々な動作を使って音を知らせます。
- ③ ^{かいじょけん てあし しょうがい ひと にちじやう せいかつどうさ}介助犬：手足に障害がある人の日常の生活動作をサポートします。

2 合理的配慮の提供（対応要領第4条関係）について

(1) 合理的配慮の基本的な考え方

「行政機関等がその事務・事業を行うに当たり、個々の場面において、障害者から現に社会的障壁の除去を必要としている旨の意思の表明*があった場合において、その実施に伴う負担が過重でないときは、障害者の権利利益を侵害することとならないよう、社会的障壁の除去の実施について、必要かつ合理的な措置、取組みを行うこと」が合理的配慮とされます。

*意思の表明：言語（手話を含む）のほか、点字、拡大文字、筆談、実物の提示や身振りサイン等による合図、触覚による意思伝達など、障害者が他人とコミュニケーションを図る際に必要な手段（通訳を介するものを含む）により伝えられるものです。

また、障害者からの意思の表明のみでなく、知的障害や精神障害等により本人の意思の表明が困難な場合には、障害者の家族や介護者等、コミュニケーションを支援する者が本人を補佐して行う意思の表明も含まれます。

(2) 合理的配慮の判断の視点

合理的配慮は、事務・事業の目的・内容・機能に照らし、次に掲げる内容に留意して判断し、実施しなければなりません。

また、障害の特性や社会的障壁の除去が求められる具体的場面や状況に応じて異なり、代替措置の選択も含め、相手方との話し合いによる相互理解を通じて、柔軟に対応することが求められます。

- ① 必要とされる範囲で本来の業務に付随するものに限られること。
- ② 障害者でない者との比較において同等の機会の提供を受けるためのものであること。
- ③ 事務・事業の目的・内容・機能の本質的な変更には及ばないこと。

(3) 環境の整備との関係

不特定多数の障害者を主な対象とする次に掲げる事前改善措置について、個々の障害者に対する合理的配慮を的確に行うための環境の整備として実施に努めなければなりません。

また、環境の整備には、ハード面のみならず、職員に対する研修等のソフト面の対応も含まれます。

- ① 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（平成18年法律第91号）、いわゆるバリアフリー法に基づく公共施設や交通機関のバリアフリー化
- ② 意思表示やコミュニケーションを支援するためのサービス・介助者・支援者等の人的支援

③ 障害者による円滑な情報の取得・利用・発信のための情報アクセシビリティ※
の向上

※情報アクセシビリティ：パソコンやWebページをはじめとする情報関連のハード、ソフト、サービスなどを、高齢者や障害者を含む多くのユーザーが不自由なく利用できることをいいます。

なお、アクセシビリティとは、年齢や障害の有無に関係なく、誰でも必要とする情報に簡単にたどり着け、利用できることをいいます。

(4) 過重な負担の判断の視点

過重な負担については、個別の事案ごとに、次の要素等を考慮し、具体的場面や状況に応じて総合的・客観的に判断することが必要となり、過重な負担に当たると判断した場合は、障害者にその理由を説明し、理解を得るよう努めることが求められます。

- ① 事務・事業への影響の程度（事務・事業の目的・内容・機能を損なうか否か）
- ② 実現可能性の程度（物理的・技術的制約、人的・体制上の制約）
- ③ 費用、負担の程度や財政状況
- ④ 事務・事業規模

(5) 合理的配慮となり得る具体例

合理的配慮は、具体的場面や状況に応じて異なり、多様かつ個別性の高いものですが、具体例としては、次のようなものがあげられます。

なお、記載した具体例については、「(4) 過重な負担の判断の視点」で示した過重な負担が存在しないことを前提としていること、また、これらはいくまでも例示であり、記載されている具体例だけに限られるものではないことに留意する必要があります。

■物理的環境への配慮の具体例

具体例
① 段差がある場合に、車椅子・歩行器利用者のためにキャスター上げ等の補助をしたり、段差に携帯スロープを渡したりする。
② 書棚の高い所や低い所等利用者が不便を感じる所に置かれたパンフレット等を取って渡したり、パンフレット等の位置を分かりやすく伝えたりする。
③ 目的の場所まで案内する場合に、障害者の歩行速度に合わせた速度で歩いたり、左右・前後・距離の位置取りについて、障害者の希望を聞いたりする。
④ 障害の特性により、頻繁に離席の必要がある場合に、会場の座席位置を出入口付近にする。

<p>⑤疲労を感じやすい障害者から別室での休憩の申し出があった場合に、別室の確保が困難なときは、当該障害者に事情を説明し、対応窓口の近くに長椅子を移動させて臨時の休憩スペースを設ける。特に女性の場合はバスタオル等を準備し、プライバシーの保護に留意する。</p>
<p>⑥不随意運動等により書類等を押さえることが難しい障害者に対し、職員が書類を押さえたり、バインダー等の固定器具を提供したりする。</p>
<p>⑦災害や事故が発生した際、館内放送で避難情報等の緊急情報を聞くことが難しい聴覚障害者に対し、電光掲示板、手書きのボード等を用いて、分かりやすく案内し、誘導を図る。</p>

■意思疎通への配慮の具体例

具体例
<p>①筆談、読み上げ、手話、点字、拡大文字等のコミュニケーション手段を用いる。</p>
<p>②意思疎通が不得意な障害者に対し、絵カード等を活用して意思を確認する。</p>
<p>③通常、口頭で行う案内を、紙に書いて渡す。</p>
<p>④書類記入の依頼時に、記入方法等を本人の目の前で示したり、分かりやすい記述で伝達したり、本人の依頼に応じ、代読や代筆といった配慮を行う。</p>
<p>⑤視覚障害のある委員（又は関係人）に会議資料等を事前送付する場合に、読み上げソフトに対応できるよう電子データ（テキスト形式）で提供する。</p>
<p>⑥比喩表現等の理解が困難な障害者に対し、比喩や暗喩、二重否定表現などを用いずに具体的に説明する。</p>
<p>⑦障害者からの申し出に応じ、ゆっくり、丁寧に、繰り返し説明し、内容が理解されたことを確認しながら対応する。また、なじみのない外来語は避け、漢数字は用いず、時刻は24時間表記ではなく午前・午後で表記するなどの配慮を念頭に置いたメモを必要に応じて適時に渡す。</p>
<p>⑧会議の進行にあたり、資料を見ながら説明を聞くことが困難な視覚又は聴覚に障害のある委員や知的障害を持つ委員に対し、ゆっくり、丁寧な進行を心がけるなどの配慮を行う。</p>

■ルール・慣行の柔軟な変更の具体例

具体例
<p>①順番を待つことが苦手な障害者に対し、周囲の理解を得たうえで、手続き順を入れ替える。</p>

② ^た立^{れつ}て^{なら}列^{じゆんぼん}に^ま並^{ばあい}んで^{しゆうい}順^{りかい}番^えを^{とうがいしょうがいしゃ}待^{じゆんぼん}っている^く場合^{べっしつ}に^{せき}、^{ようい}周^{べっしつ}囲^{せき}の^{ようい}理^{せき}解^{かく}を得^{かくほ}たう^{かくほ}え^{かくほ}で^{かくほ}、^{かくほ}当^{かくほ}該^{かくほ}障^{かくほ}害^{かくほ}者^{かくほ}の^{かくほ}順^{かくほ}番^{かくほ}が^{かくほ}来^{かくほ}る^{かくほ}ま^{かくほ}で^{かくほ}別^{かくほ}室^{かくほ}や^{かくほ}席^{かくほ}を^{かくほ}用^{かくほ}意^{かくほ}す^{かくほ}る。

③ ^{しゆわつうやくしゃ}スク^{ほんしょなど}リー^みン、^み手^{など}話^{ちか}通^{せき}訳^{かくほ}者^{かくほ}、^{かくほ}板^{かくほ}書^{かくほ}等^{かくほ}が^{かくほ}よ^{かくほ}く^{かくほ}見^{かくほ}え^{かくほ}る^{かくほ}よ^{かくほ}う^{かくほ}に^{かくほ}、^{かくほ}ス^{かくほ}ク^{かくほ}リー^{かくほ}ン^{かくほ}等^{かくほ}に^{かくほ}近^{かくほ}い^{かくほ}席^{かくほ}を^{かくほ}確^{かくほ}保^{かくほ}す^{かくほ}る。

④ ^{しゃりようじようこうぼしょ}車^{しせつでいりぐち}両^{ちか}乗^{ぼしょ}降^{へんこう}場^{へんこう}所^{へんこう}を^{へんこう}施^{へんこう}設^{へんこう}出^{へんこう}入^{へんこう}口^{へんこう}に^{へんこう}近^{へんこう}い^{へんこう}場^{へんこう}所^{へんこう}へ^{へんこう}変^{へんこう}更^{へんこう}す^{へんこう}る。

⑤ ^{しせつない}施^{ちゆうしゃじようなど}設^{しゆうがいしゃ}内^{らいちよう}の^{たすう}駐^み車^こ場^こ等^こに^こお^こい^こて^こ、^こ障^こ害^こ者^この^こ来^こ庁^こが^こ多^こ数^こ見^こ込^こま^これる^こ場^こ合^こ、^こ通^こ常^こ、^こ障^こ害^こ者^こ専^こ用^こと^こさ^これ^こて^こい^こない^こ区^こ画^こを^こ障^こ害^こ者^こ専^こ用^この^こ区^こ画^こに^こ変^こ更^こす^こる。併^こせて^こ、^こガ^こイ^こド^こ (案内する者) を配置し、又は案内を見やすい位置に表示する。

⑥ ^{たにん}他^{せつしよく}人^{たにんずう}と^{なか}の^{なか}接^{きんちようなど}触^{きんちようなど}、^ふ多^ふ人^ふ数^ふの^ふ中^ふに^ふい^ふる^ふこ^ふと^ふに^ふよ^ふる^ふ緊^ふ張^ふ等^ふに^ふよ^ふり^ふ、^ふ不^ふ随^ふ意^ふの^ふ発^ふ声^ふ等^ふが^ふあ^ふる^ふ場^ふ合^ふに^ふ、^ふ当^ふ該^ふ障^ふ害^ふ者^ふに^ふ説^ふ明^ふの^ふ上^ふ、^ふ施^ふ設^ふの^ふ状^ふ況^ふに^ふ応^ふじ^ふて^ふ別^ふ室^ふを^ふ準^ふ備^ふす^ふる。